



<市町村探訪>

地域住民参加による公園づくり

みずきみず

～「仮称」水木水公園(日立市)



着々と工事が進む水木水公園

はじめに

日立市の水木地区は市の南部にあり、JR常磐線大みか駅の北側に位置する地区です。地区の東側は海に面しており、気候は温暖で自然環境にも恵まれています。この周辺は、現在では多くの住宅が建ち並んでいますが、その一方で地区内には泉が森と呼ばれる森があり、豊かな緑も残されています。この泉が森は、泉神社とその脇にある泉の総称で、「常陸国風土記」にも記述されている大変由緒ある所です。今回は、この泉が森に隣接した場所で地域住民が参加して計画が進められてきた「仮称」水木水公園について紹介いたします。

公園づくりのきっかけ

この泉のすぐ近くにはかつてこの水を利用した養魚場がありました。養魚場が廃業となってからは、そのまま放置されていましたが、その後この場所を埋め立てて住宅地を造成する計画が持ち上がりました。しかし、ここには、貴重な淡水魚である「イトヨ」がいつの頃からか生息していたのです。特に、ここに住む「イトヨ」は一生を淡水域で過ごす陸封型とよばれる「イトヨ」であり、これは全国的に見ても生息箇所が極めて限られる貴重な淡水魚なのです。そこで、地元のコミュニティ組織である水木学区市民運動推進会が「イトヨ」の保護を訴え、この場所の公園化を市に請願し続けました。その結果、地域住民の熱意が市を動かし、ここが公園として整備されることになったのです。

公園づくりへの地域住民のかかわり

公園づくりが決まると、泉神社氏子の代表と水木学区市民運動推進会からなる仮称水木水公園建設委員会が発足し、さらに市民がつくり育てる公園を目標にワーキンググループが結成されました。グループでは、ワークショップ方式でディスカッションを重ね、行政と一体になりながら望ましい公園づくりを目指した取り組みを行って行くことになったのです。

水公園の基本計画づくりにあたっては、情報収集や勉強会から始まって、具体案の検討に至るまで計8回に及ぶワークショップを開催し、自然の生態系の保持やユニバーサルデザインを特色とした基本計画をまとめ上げました。

基本計画づくりが終了すると、実際の工事を想定してより具体的な内容を検討する実施設計に入りました。実施設計にあたっては、ワーキングのメンバーを課題別に小グループに分けて、現地調査に基づく事例評価や班別協議を重ね、基本計画と同様に8回に及びワークショップを開催し、実施設計をまとめ上げたのです。



泉が森神社の泉()から、こんこんと湧き出る清水が、公園の池()へ流れ込み貴重な淡水魚イトヨを育てている。

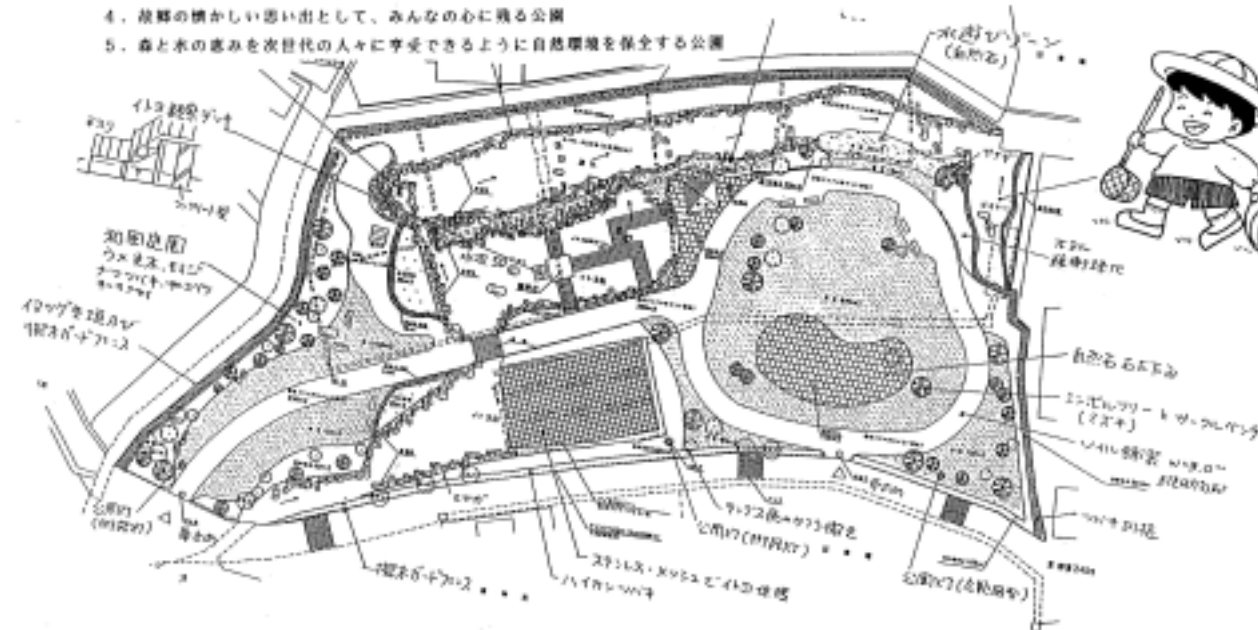




☆公園の主な特徴

1. お年寄りや、子供等地域のみなさんに親しまれる泉が森と一体的な公園
2. イトヨの保全、繁殖と小島や島出などが住む地球にやさしい公園
3. 春夏秋冬、清水と花と緑に囲まれ、地域の人々に豊かなおもてをしてくれる公園
4. 故郷の懐かしい思い出として、みんなの心に残る公園
5. 森と水の恵みを次世代の人々に享受できるように自然環境を保全する公園

水公園の実施設計案



公園の特徴

この公園は、面積が約4,900㎡で公園の規模としては決して大きいものではありませんが、そこには、住民の意見やアイデアが結集されています。たとえば、イトヨ池にはイトヨの観察デッキを設置する一方で、イトヨの保護を目的としたゾーンを併せて設けました。子供達にも親んでもらえるよう水遊びゾーンを設けたり、ホテルが生息できるような環境も作り上げました。こうして、いつしか「人とイトヨが生活空間を共有する場」が、(仮称)水木水公園づくりの大きなテーマになっていったのです。

現在の取り組み

本公園は、昨年度工事が始まり、現在は第1期工事が終わったところです。工事の着工に伴って、工事の円滑な進行と完成後の公園の利活用を図るため仮称水木水公園運営委員会を発足させ、現在も活発にワークショップを開催しています。残った第2期工事についても、今年の3月頃の完成を目指して工事を進めるところです。また、公園の正式名称についてもまもなく決定する予定です。

おわりに

本公園づくりは、スタート段階から地域住民が関わるとともに、設計の詳細な部分まで住民の意見を取り入れていることが特徴です。多種多様な考え方をもった住民の意見を住民自身がまとめながら、行政との共同作業でこのような公園を作り上げていくことは非常に珍しい例です。また、こうしたワークショップを通じて、地域の人材の活用や相互のコミュニケーションが図られたことにより、結果として地域の活性化にもつながってきたことは大きな収穫だったと言えるのではないのでしょうか。

(問い合わせ先：日立市都市計画課

0294-22-3111)



この日はメンバー約20名が集まり工事にしても細部にわたり活発な意見交換・質疑がなされた。